

2026 年 9 月 25 日

サステナビリティ基準委員会
エフラグ

**サステナビリティ基準委員会とエフラグがブリュッセルで会合し、
ESRS-40a 公開草案に関するアウトリーチイベントを共同開催するとともに、二者間会合を
開催**

2026 年 9 月 25 日、ブリュッセル発 — サステナビリティ基準委員会（SSBJ）の代表者と、エフラグ—企業報告における欧州の声（EFRAG）の代表者は、2026 年 9 月 25 日にブリュッセルにおいて、会計指令第 40a 条に従った特定の EU 域外企業向け欧州サステナビリティ報告基準（以下「ESRS-40a」という。）の公開草案（以下「ESRS-40a 公開草案」という。）に関するアウトリーチイベントを共同で開催しました。本イベントには、主として日本から、幅広い利害関係者がオンラインで参加しました。

また、アウトリーチイベントに加えて、SSBJ と EFRAG の代表者は非公開の二者間会合も開催しました。二者間会合において、SSBJ と EFRAG は、それぞれの活動の最新情報について報告したほか、ESRS-40a 公開草案を含む相互に関心のある事項について意見交換を行いました。

SSBJ と EFRAG は、長年にわたり築いてきた良好な関係を維持、強化するとともに、今後も定期的な意見交換を継続していく予定です。

川西安喜 SSBJ 委員長は、次のように述べています。

「ブリュッセルでの会合を主催いただいた EFRAG のサステナビリティ報告チームに感謝の意を表します。特に、EFRAG と SSBJ の長年にわたる協力関係を礎に、この機会に ESRS-40a 公開草案に関するアウトリーチイベントを共同開催できたことを大変嬉しく思います。SSBJ 基準の適用対象となる日本企業の多くが ESRS-40a の対象にもなる可能性が高く、日本の利害関係者は、両方の基準のセットを適用する際の負担を最小限に抑えることに関心を寄せています。今後も、EFRAG との緊密な関係を維持し、さらに強化していくことを楽しみにしています。」

キアラ・デル・プレーテ EFRAG サステナビリティ報告技術専門家グループ（SR TEG）議長は、次のように述べています。

「SSBJ の皆様をブリュッセルにお迎えし、ESRS-40a 公開草案に関する今回のアウトリーチイベントを共同で開催できたことを嬉しく思います。日本の利害関係者と直接意見交換を行うことは、実務においてよく機能する基準を開発するために不可欠であり、今回のイベントを通じて、日本の作

成者やその他の利害関係者の見方について価値ある示唆を得ることができました。我々は、SSBJ との緊密な協力関係を高く評価しており、それは相互運用可能性と、それぞれの法域で事業を行う企業にとって不要な報告負担の軽減という共通のコミットメントを反映しています。将来の月々において、この強固な関係をさらに発展させていくことを楽しみにしています。」

サステナビリティ基準委員会（SSBJ）について

サステナビリティ基準委員会（SSBJ）は、2022年7月に公益財団法人財務会計基準機構（FASF）の下に設立されたプライベート・セクターの機関です。SSBJは2025年3月我が国最初のサステナビリティ開示基準を公表しました。金融商品取引法において、SSBJが開発したサステナビリティ開示基準は、金融庁長官により日本において一般に公正妥当と認められるサステナビリティ開示基準として指定されています。SSBJは、海外のサステナビリティ基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルなサステナビリティ開示基準の開発に貢献しています。SSBJに関する詳細な情報は、ウェブサイト（<https://www.ssb-j.jp/jp/>）をご参照ください。

エフラグ（EFRAG）について（<https://www.efrag.org/>）

EFRAGは、公共の利益に資することを目的として、欧州委員会の後押しのもと2001年に設立された民間団体です。EFRAGは、企業サステナビリティ報告指令（CSRD）において新たな役割が付与されたことを受け、2022年にその使命を拡大し、欧州サステナビリティ報告基準（ESRS）案及びその改正案の形で欧州委員会に技術的助言を提供しています。EFRAGの会員は、欧州のステークホルダー団体、各国団体及び市民社会団体によって構成されています。EFRAGの活動は、次の2つの柱に基づいて行われています。

- **財務報告の柱:** 欧州の視点からIFRS会計基準の開発に影響を与えるとともに、それらが資本市場の効率性にどのように貢献するかを検討し、IFRS会計基準（及びその改正）のエンドースメントに関する助言を欧州委員会に提供する。
- **サステナビリティ報告の柱:** 欧州サステナビリティ報告基準（ESRS）案及び関連する改正案を欧州委員会のために開発するとともに、ESRSの導入支援を提供する。